

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学への合格生徒数の増加 ・ 外部学力調査（ベネッセ・進路マップ実力診断テスト）の生徒学力評価指標の向上 ・ 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度の向上 ・ 家庭学習時間の増加 ・ ICTを活用した授業の増加
計画名	～ わかる授業 学ぶ喜び ～ 阿武野「学力充実」プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 確かな学力の育成</p> <p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業力の向上に取り組む、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>ア アクティブラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。</p> <p>※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成28年度79%)を上昇させ、平成31年度には85%以上にする。</p>
事業目標	<p>普通教室16教室への短焦点プロジェクターの設置、タブレット型端末機の活用により、教材の視覚化、効率化を図るとともに、生徒が自ら参加・活動する「対話型」「発表型」「多方向型」のアクティブラーニングをさらに進展させる。受け身の授業から生徒が主体的、協同的に学ぶ「わかる授業」へと授業の改善を進め、生徒自らが学ぶことへの喜びを実感し、主体的に学習に取り組む力を育成する。</p> <p>これらにより、3年後の難関・中堅私立大学合格者数30人以上、興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度88%以上、ICTを活用した授業4000時間以上及び「実力診断テスト」での成績上昇者（Cゾーン以上）の毎年10%向上、家庭学習時間の毎年10分増加を実現する。</p>
整備した 設備・物品(数量)	短焦点プロジェクター16台、タブレット型端末機32台、無線LAN環境一教室
取組みの 主担・実施者	<p>主担者：「あぶのプロジェクト・学力充実推進チーム」（教頭・首席・指導教諭・教科主任・情報科教諭）</p> <p>実施者：全教員の8割程度を予定</p>
本年度の 取組内容	<p>「あぶプロ・学力充実推進チーム」（通称学プロ）を立ち上げ、学プロメンバーを中心として、先進校視察や授業力向上のための研修に参加し伝達研修を行うと共に、国語、英語、数学、地歴公民、保健体育の学プロメンバーによる公開授業、研究協議を10月～11月に実施した。同時に、機器活用の校内研修、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「阿武野スタンダード授業」「ICT活用」をテーマに、全体研修(班別協議)を実施した。</p>
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学合格者数：10名以上 ・ 平均家庭学習時間：昨年度比10分の増加 ・ 外部学力調査(ベネッセ・進路マップ実力診断テスト)の成績上昇者（Cゾーン以上）の昨年度比10%向上。 ・ 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度：79%→82% ・ ICTを活用した授業：2500時間→3000時間
自己評価	<p>学プロを中心とした取組みにより、学校組織として、授業改善と共に、新学習指導要領、高大接続の学びを深めることができた。授業アンケート結果は、目標の数字には達していないが、全項目で、1学期、2学期共に、昨年度を上回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難関・中堅私立大学合格者数：7名(△) ・ 平均家庭学習時間：昨年度比5分の増加(△) ・ 外部学力調査(ベネッセ・進路マップ実力診断テスト)の成績上昇者昨年度比7.5%の下降(△) (2年生は4%上昇、1年生は19%下降) ・ 興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度：81.4%(△) ・ ICTを活用した授業：3000時間以上(○)
次年度に向けて	<p>「あぶプロ・学力充実推進チーム」を中心として、機器活用校内研修(4月)、教材開発の継続と共有(4月～)、国語、英語、数学、理科、家庭、芸術の校内研究授業(5月～12月)、職員相互の授業見学、研究協議を行う。進路指導部、教務部、学年団を中心に難関・中堅私立大学進学希望者に対する進学講習・夏季・冬季休業期間の学習会を実施する。</p> <p>今年度の研究テーマを継続すると共に、評価方法、コンピテンシー・ベースの授業づくり、ICT機器の効果的な使用、「振り返り」を行う授業、生徒の学習意欲を高める方法の模索等を含め、研究を進める。</p> <p>学校全体で授業改善に取り組むことで、教職員が意欲的に教材研究や相互の授業見学、研究協議に参加し、生徒を巻き込んで、家庭学習時間の増加、進学実績の上昇に繋げていく。</p>